

# 円山川流域の豊岡盆地を中心とした 多様な自然環境の再生



研究第一部 主任研究員 坂本 俊二

円山川は兵庫県北部を流下する流域面積約1,300km<sup>2</sup>の一級河川であり、豊岡盆地において、出石川、八代川、六方川、奈佐川が合流している。

豊岡盆地では、かつて野生のコウノトリが生息するとともに、六方田んぼ周辺をはじめとした湿田を利用する魚類やカエル、昆虫類が豊富に生息していた。昭和46年にコウノトリが野生絶滅するまで、日本で最後まで野生のコウノトリがいた場所である。

豊岡盆地では、円山川支川鎌谷川流域の「コウノトリの郷公園」において、国の特別天然記念物であるコウノトリを保護・増殖し、その野生復帰を図る取り組みが行われており、平成17年度には試験放鳥を実施する予定である。また、これ以外にも、地域を挙げた野生復帰に向けての総合的な取り組みがなされている。

本検討では、これらの状況を踏まえ、コウノトリをシンボルとした地域づくりを進める中で、豊岡盆地内の県管理河川における生態系の多様性を保全・再生・創出することを目的とし、自然再生計画策定のための検討を行うものである。

検討の結果、現在でも良好な環境が残されている箇所はあるものの、野生のコウノトリがいた当時に比べ、生物の

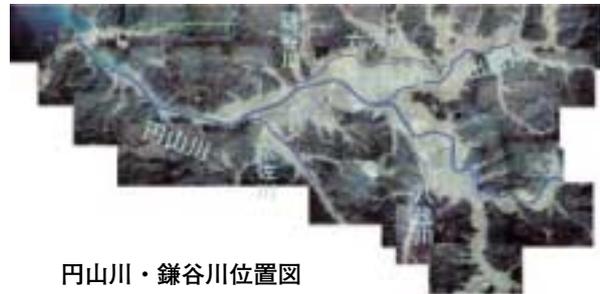
多様性は失われつつある。これは、湿地が減少したことや、河川や水路、田んぼや山裾を介して形成されていた生物の生息生育環境が減少し、魚類や両生類、水生昆虫の生息に影響を及ぼしたためと考えられる。

多様な自然環境を再生する目標として、次のテーマを掲げることで、その実現を図ることとした。

[地域のエコロジカルネットワークの保全・再生・創出]

- 湿地、山裾の保全・再生
- 河川と水田と水路と山裾の連続性の確保
- 良好な自然環境の保全

なお、平成15年度からは、県管理区間に加え、直轄区間も対象に加えた計画の策定のための検討が開始されている。



円山川・鎌谷川位置図

## ちくさ やすむろ 千種川水系安室川の多様な自然環境の再生

研究第一部 主任研究員 辻 光浩

安室川は、兵庫県赤穂郡上郡町をほぼ東西に流れる二級河川である。安室川には、以前、全国的にも希少な存在である淡水紅藻類のチスジノリ（絶滅危惧種）が生息していたが、平成8年度以降、その生息は確認されていない。また、チスジノリと同じく貴重藻類であるカワモズクの自生地であることも確認され、これら貴重藻類の生育・生息環境の保全・復元が望まれている。

そこで、貴重藻類の生育環境を保全・復元するだけでなく、安室川全体の多様な生態系の保全・復元が必要であると考え、自然再生計画の策定に取り組んでいる。

計画は、「安室川の課題抽出→自然再生の目標設定→具体策の検討（予測・評価）→段階的施工→モニタリング→フィードバック」のフローで進めることとしており、現在、課題7つが明確になった段階である。



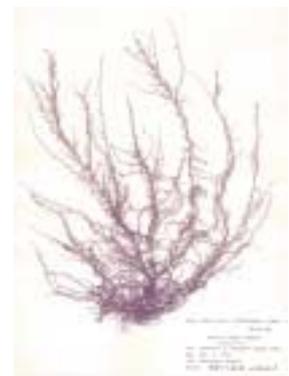
かつてチスジノリが生息していた箇所

<安室川の課題>

- ①水質の変化
- ②細粒成分の河床堆積
- ③淵の小規模化および消失
- ④湧水の減少
- ⑤植生の単調化と外来種の進入
- ⑥貴重藻類等の生育環境の変化
- ⑦人と川との関わりの喪失

今後、これらの課題を解決するための具体策を検討していくが、インパクト・レスポンスといった視点からも「モニタリング指標」をどのように設定していくかが重要であると考えている。

低コスト、住民の参画と協働（住民がモニタリング実施可能）という視点からも、分かりやすいモニタリング指標を設定し、安室川の多様な自然環境の再生に取り組んでいきたい。



チスジノリ